

低出生体重児の人工肛門閉鎖術における環状皮膚縫合の有用性

1. 研究の目的

人工肛門閉鎖という術式では高率に手術部位感染(SSI)が起こることが知られています。これに対し成人外科領域では環状皮膚縫合という、創部を巾着状に縫合して直径 10mm 程度の孔(ドレナージ孔)が残るように縫縮する手技が行われ、SSI 減少および整容的な面で優れていることが多数報告され、一般的な手技となっています。一方、小児外科領域では、同様の報告はほとんど見られず、成人外科でこれまで行われてきた線状縫合が一般的です。当院では、これまで鎖肛やヒルシュスプルング病の体重 5kg 程度の児の人工肛門閉鎖において環状皮膚縫合を導入し、成人外科と同様に SSI 減少および整容的な面で良好な成績を得てきました。そこで本研究では対象を低出生体重児にまで拡大し、また同様に良好な結果を得ることができましたので、これを従来の方法(線状縫合)と比較して報告します。

2. 研究の方法

2014 年から 2021 年の間に当院にて人工肛門閉鎖術を行った低出生体重児を対象とし、過去の診療録の記載から調査します。

3. 情報の公表

研究結果は学術雑誌に投稿し、論文として公開される予定です。患者様の個人情報公表されることはありません。

4. 研究実施機関およびお問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

群馬県立小児医療センター 小児外科 則内友博

住所: 〒377-8577 群馬県渋川市北橋町下箱田 779 番地

電話: 0279 -52 -3551